

第14回強制動員全国研究集会

「強制労働の否定を問う 佐渡鉱山 の遺産価値を深めるために」

2022年8月27日(土) 13:30~16:00

zoom+対面 会場 新潟県自治労会館講堂

〒950-0965 新潟県新潟市中央区新光町 6-7

<報告>

佐渡鉱山での強制労働研究の現状・課題

廣瀬貞三（福岡大学名誉教授） P. 2

新潟における強制連行調査の経過

木村昭雄（もと平和教育研究委員会） P. 9

歴史の否定を問う研究者有志の声明

藤石貴代（新潟大学人文学部） P.14

佐渡鉱山動員朝鮮人600人の名簿から

竹内康人（強制動員真相究明ネットワーク） P.28

「証言」から見た佐渡鉱山朝鮮人強制動員の被害

民族問題研究所 責任研究員 金丞垠（キム・ソンウン） P.43

「対話 次世代がお互いに「問い合わせる」佐渡世界遺産問題」

竹田和夫（鉱山文化研究）－紙上報告－ P.48

<討論>

佐渡の現地報告

フィールドワーク資料 P.60

主 催 強制動員真相究明ネットワーク

ホームページ：<http://www.ksyc.jp/sinsou-net/> mail shinsoukyumei@gmail.com

はじめに

1939年7月に日本政府（平沼騏一郎首相）は「労務動員実施計画」を閣議決定し、この一環として同年9月から朝鮮人労務動員を始めた。日本政府はこの時点から1945年8月まで、朝鮮人労務動員政策（募集、官斡旋、微用）を実施した。日本、韓国の学界ではこの3段階の動員政策を総称して、「強制連行」、「強制動員」とよぶのが通説である。「募集」は1939年9月から、「官斡旋」は1942年2月から、「微用」は1944年9月からである。以下、煩雑なので、カッコは省略する。¹

こうした枠組みの中で、佐渡鉱山での朝鮮人労働を強制連行、強制動員とする見解が圧倒的に多数である。この視点にたつ研究として、広瀬貞三、チョン・ヘギヨン（정혜경）、キム・ミンチョル（김민철）、竹内康人のものがある。²特に竹内は最近多くの新史料を発掘し、精力的に研究を進めている。2022年7月新潟市で行った報告レジュメは現時点で最良のものである。

これに対して、佐渡鉱山の朝鮮人労働は「強制連行、強制労働ではなかった」と主張するごく少数のグループに、西岡力、イ・ウヨン（이우연）がいる。彼らの主張は歴史認識問題研究会（会長は西岡）が刊行した『佐渡鉱山における朝鮮人戦時労働の実態』（同会、2022年5月）によくまとまっている。³この中で西岡は総論として「朝鮮人戦時労働と佐渡金山」（以下、「佐渡金山」とする）を書き、基本的な主張を展開している。本稿では先行研究も援用し、主に西岡の「佐渡金山」の主張に反論する形式で、二つのことを明らかにする。第一に西岡の主張の根拠はなにか、第二に西岡が黙殺する強制労働の実態はどうなのかである。ただし、紙幅の関

¹ 全体像については、山田昭次・古庄正・樋口雄一『朝鮮人戦時労働動員』（岩波書店、2005年）、チョン・ヘギヨン（정혜경）『朝鮮人強制連行・強制労働 I 日本編』（ 선인、2006年）（朝鮮語）、外村大『朝鮮人強制連行』（岩波書店、2012年）、チョン・ヘギヨン『微用・供出・強制連行・強制労働』（ 선인、2013年）（朝鮮語）参照。

² 広瀬貞三「佐渡鉱山と朝鮮人労働者（1939～1945）」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3号（2000年3月）、チョン・ヘギヨン『日本地域の炭鉱鉱山における朝鮮人強制連行動員の実態—三菱鉱山（株）佐渡鉱山を中心に』（韓国・日帝強制動員被害者支援財団、2019年）（朝鮮語）（以下、支援財団とする）、広瀬貞三「佐渡鉱山と朝鮮人労働者+新史料」報告レジュメ（強制動員ZOOM講座、2021年10月23日）、チョン・ヘギヨン『日本地域の炭鉱鉱山における朝鮮人強制連行動員の実態—三菱鉱山（株）佐渡鉱山を中心に』（韓国・支援財団、2021年）（日本語）、チョン・ヘギヨン「資料を通して見た「佐渡鉱山」強制動員の実態」『日本世界遺産登載推進「佐渡鉱山」強制動員の歴史歪曲』シンポジウム（支援財団、2022年1月27日）『報告集』（朝鮮語）、チョン・ヘギヨン「名前を記憶せよ—三菱佐渡鉱山朝鮮人強制動員』『日本の佐渡鉱山世界遺産登載強行による対応と展望』シンポジウム報告レジュメ（韓国・東北亞歴史財団、同年2月16日）（朝鮮語）、キム・ミンチョル（김민철）「佐渡鉱山と朝鮮人強制動員に関する調査報告書」強制動員真相究明ネットワーク（<https://ksyc.jp/sinsou-net/>）（同年）、竹内康人「佐渡鉱山の朝鮮人強制労働、その否定論を問う」『RAIK通信』（在日韓国人問題研究所）188号（同年2月）、竹内康人「佐渡鉱山での朝鮮人強制労働—強制労働否定論批判」報告レジュメ（強制動員真相究明ネットワーク、同年2月27日）、竹内康人「佐渡鉱山での朝鮮人強制労働」『科学的社会主義』288号（2022年4月）、竹内康人「佐渡鉱山が世界遺産になるために一問われる「強制労働」の直視」『世界』同年5月号、竹内康人「軍艦島」から「佐渡鉱山」へ—強制動員否定と歴史の真実」報告レジュメ（梨の木ピースアカデミー、同年5月26日）、広瀬貞三「朝鮮人労働者と佐渡鉱山、三菱鉱業の史料（1）」『福岡大学人文論叢』54巻1号（同年6月）、竹内康人「佐渡鉱山と朝鮮人強制労働—史料と証言」報告レジュメ（新潟大学サテライトキャンパス、同年7月16日）等。

³ 他の執筆者は、勝岡寛次、山本優美子、長谷亮介、李宇衍、黃意元である。